

味わってみよう, 日本の美術 B鑑賞

～ 日本のアートが世界に～

広島市立東野小学校 佐々木奈緒美

- 1 日時・場所 12月〇日() 6-3教室
- 2 学年・学級 第6学年3組(男子16名 女子15名)

3 題材について

- 図画工作が好きという児童がとても多く、造形活動には、全体的に意欲的に取り組んでいる。特に工作には高い関心を示し、とても意欲的に活動することができる。
しかし、鑑賞になると、意欲的とは言い難く、与えられたから仕方がなくという児童も多く見られる。鑑賞した感想も明るいからいい、好き、本物とそっくりだ、とか主観的に見たり、写実的なものもいいとか感じたりする子どもが多い。
- 子どもたちは、社会科の歴史の学習の中で室町文化を学び、日本の文化が発達する中で、中国から伝えられた水墨画を雪舟が大成し、日本の文化として発展していったことを学習した。また、実際に水墨画を体験することで、より身近に感じたのではないかと思う。さらに江戸時代の浮世絵などの学習をすることにより、日本の美術に、より興味を持つことができたのではないかと思う。
そこで、日本の作品の良さや美しさ、受け継がれてきた技が、私たちの生活を豊かにしていることや外国の人たちにも影響を与えてきたことにも気づかせたい。そして、外国の作品と比べることにより、日本の作品の特徴や良さを感じ取ってほしいと思う。
- 本題材の指導に当たっては、どちらが好きかと問うことにより、自分なりに浮世絵とゴッホの作品を比べ、それぞれの絵の良さや特徴を十分に味わわせたい。そして、日本の作品が、海外の画家たちにも影響を与えたこともあわせて、日本の美術のすばらしさを感じ取らせたい。

4 題材の目標

- (関心・意欲・態度) ・作者や作品に対して、自分なりの見方や感じ方を持ちながら、見る楽しさを味わおうとする。
- (鑑賞の能力) ・ゴッホと広重の作品を比べることにより、浮世絵と油絵の特徴や良さを知る。
・日本の浮世絵がゴッホに影響を与えたことを知る。

5 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア関心・意欲・態度	エ鑑賞の能力
	作品に親しみ、良さや美しさを思いのままに感じ取り、味わおうとしている。	自分なりの思いを持ち、作品の特徴をとらえ、見方や感じ方を広げ、深めることができる。
	自分の思いを持ち、友達に話したり、友達の話に関心を持って聞こうとしたりして、楽しく見ようとする。	油絵や浮世絵の良さや特徴をつかみ、見方を深めることができる。

6 指導と評価の計画 (全 1 時間)

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		観点・評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する状況への手だて
第一次	・自分が好きな作品を選び、鑑賞する。	活動の様子 ワークシート	・自分なりに表現の特徴や思いを感じ取って記入している。 ・自分の思いを発表したり、友達の話に関心を持って聞こうとしている。	・全体を見たり、部分を見たり、色や線にも着目するように声をかける。 ・なぜ、その作品を選んだのか、自分の思いをそのまま書くよう声をかける。

7 本時の目標

- ゴッホや広重の作品を鑑賞し，その良さや美しさを味わう。
- 感じたことや思ったことを話し合うことによって，お互いの見方や感じ方を認め合う。

8 準備物

(指導者) ワークシート テレビ コンピューター ゴッホと広重の作品をコピーしたもの
(児童) 筆記用具

10 本時の展開

学習活動	教師の支援	評価規準・評価方法
1. ゴッホや浮世絵について知る。	・代表作を見せ，ゴッホや浮世絵について簡単に説明する。	
2. 三種類の絵を見て，どちらがゴッホの作品でどちらが広重の作品かを当てる。	・クイズ感覚で，感覚的にそれぞれの特徴を感じとらせる。 ・ゴッホが広重の絵をまねたことを知らせる。	・自分なりに浮世絵はどっちか考え，意思表示をする。
3. ゴッホの作品と広重の作品を比べ，好きな方を選んで，感じたことや思ったことをワークシートに記入する。	・なぜ好きなのかを自分の言葉で記入できるようにさせる。	・自分の感じたことや思ったことを自分なりの言葉でワークシートに記入する。
4. 自分の好きな作品について，グループで紹介しあう。 5. ゴッホの作品や広重の作品について，どんな見方や感じ方ができたのか全体で紹介しあう。		・自分が感じたことや思ったことを友達と話し合っている。